

別紙（事後評価書）

平成 30 年度文化芸術振興費補助金（劇場・音楽堂等機能強化推進事業）

通し 番号	3	事業分野：共同制作支援事業 助成対象団体名：公益財団法人可児市文化芸術振興財団
<p>助成対象活動に関する評価</p> <p>（妥当性）</p> <p>可児市文化創造センターが中心的な制作業務を行い、他館も意見交換などを通じて制作過程を共有しながら事業の推進を行った。また、可児市文化創造センターでの稽古期間中には一部の館の制作スタッフが運営に参加した。共同制作の意図や役割分担は明確であったと認められるが、実演芸術の創造過程における他館の関与はやや不十分だった。</p> <p>ただし、地域の劇場では単独で制作することが難しい本格的な演劇作品に取り組み、出演者とのトークやワークショップ、舞台探検ツアーなど、各地域の実情に応じた多様なプログラムによる普及活動にも取り組んでおり、助成に値する文化的、社会的意義等があったと評価できる。</p> <p>（有効性）</p> <p>入場者数については可児公演以外では指標を達成するに至らなかったものの、満足度については全ての公演地で指標を上回っており、新たな鑑賞者の拡大や演劇ファンの固定化を目指すという目標は概ね達成したと認められる。</p> <p>（効率性）</p> <p>事業はほぼ計画通り実施されており、事業期間は適切であったと認められる。また、当初の収支予算に対して収支決算では一部の費目に増減があったものの、助成対象経費はほぼ計画通り執行されており、事業費も適切であったと認められる。</p> <p>（創造性）</p> <p>本事業では、「過去の優れた戯曲をリメイクして再評価する」ことを目的としており、日本の不条理演劇の代表的な劇作家・別役実の戯曲のなかでも上演機会が少ない『移動』（1973年初演）を取り上げ新演出で上演した。家財道具を積みリヤカーで移動する一家が先の見えない道を歩み続けなければならない様子を、無数の電信柱の映像、吹きすさぶ風の音をアレンジした電子的な音響、現代美術作家による不気味なオブジェなどを通じて描いた演出は、別役作品に現代的な新たなイメージを付与し、不条理演劇のテーマのひとつである近代化以降の人間社会の歩みに対する批判的なメッセージを伝えることに成功していた。我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となる公演であったと認められる。</p> <p>さらに、創作現場を共同制作館が共有することで、稽古中に各館で創作のノウハウの蓄積も図られており、各地域の実演芸術の水準の向上に一定程度貢献したと認められる。</p> <p>主演女優の知名度の高さを活用し、インタビューや写真、コメント動画などを共同制作館同士で共有した。ホームページ、広報誌、特設サイトを通じて周知し、可児を中心に各地域の新聞、全国放送のテレビ、演劇専門の情報サイトなど各種メディアでの露出があり、地域劇場発</p>		

## 別紙（事後評価書）

の作品として認知度が上がったほか、鑑賞者アンケートの満足度も各館 80%を超えていた。当該劇場・音楽堂等の評価の向上につながる公演であったと概ね認められる。

### （総 評）

当該共同制作「ala Collection シリーズ vol.11 『移動』」は、実演芸術の創造過程における他館の関与がやや不十分であったものの、妥当性、有効性、効率性、創造性において概ね適切であったと認められる。